

「ローラーとコラージュの技法を用いた 共同製作の教材研究」

難波 瑞穂*、難波 章人

Teaching Materials Research for Co-Production Using Rollers and Collage Techniques

by
Mizuho NAMBA
Akito NAMBA

【キーワード】コラージュ、情報の収集・判断・表現・処理・創造、社会生活との関わり

受理日 平成 30 年 11 月 30 日
* N 保育園、V 保育園 造形講師
純真短期大学こども学科 講師

1. はじめに

学習指導要領や保育指針などの改訂により、幼児期から深い学び、対話的学び、主体的学びの重要性が指摘されており、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた教育を今後とも考察する必要がある。筆者、難波瑞穂は3年前より保育園の現場で造形講師として活動を行ってきた。造形あそびを通して身近な自然、社会を考えること、創造性を養うことの実践研究を行ってきた。今回は、小学校との接続について活動を考え、小学校の生活科につながるような題材を選んだ。

活動のねらいとして、ローラーやコラージュの技法を用いて「夢の街」というテーマで共同製作を行い、町を作ることで、小学校で学ぶ生活科の単元「まちたんけん」の入り口となるよう設定した。活動を通して試行錯誤しながら友達同士協力して自分達の理想の街を創造して具現化する力を身に付けてほしいと考える。街作りの方法としてローラー遊びを通して下地を作り、雑誌の切り抜きなどの資料を各自が選び、コラージュして、話し合いながら街を作る。また、資料や図鑑を見て描き、よりリアルな表現を試みる。完成後は町を繋げて一つの大きな街を作り、車の玩具等で遊びながら活動の過程を振り返る。雑誌の切り抜きを用いるのは、描くよりリアルに再現でき、他者に伝わりやすい事、そして、多くの情報から必要な情報を選択し編集する能力を養うという点において活用しやすいためである。これらの情報編集力は現代において必要なスキルであり、多くの情報に囲まれている児童が自分で必要な情報を取得する力は今後も大切な能力である。雑誌を活用しコラージュの技法や図鑑を活用して描画することは4歳児で体験しているため、今回はこの経験を基に行うことでより深い学びになると考えた。今回の活動では昨品の完成だけではなく、アクティブ・ラーニングの学びとして話し合いながらクラスの友達と夢の街を作る楽しさを味わい、試行錯誤して街を発展させる過程も重視する。

本稿ではこの活動の実践方法と園児たちの作品から事例を挙げて考察する。

2. 実践方法

2-1. 製作の方法

実践名：造形教室

日時：N保育園 2018年11月～12月

V保育園 2018年7月～10月

場所：N保育園 V保育園

対象：N保育園児 5歳児クラス 19名(1クラス)

V保育園児 5歳児クラス 14名, 13名(2クラス)

4歳児クラス 15名, 16名(2クラス)

支援者：クラス担任の保育者

活動時間：製作40分×2回 鑑賞10分×1回

＜準備するもの＞

コラージュするモチーフ（雑誌、カタログ、チラシなどを切ったもの）、のり、はさみ、折り紙、クレパス12色程度、水性ペン10色程度、色鉛筆、水彩絵具5色程度、ローラー（3種類、1人一本使用）、模造紙（788×1091mm）、新聞紙、ブルーシート

2-2. 製作の手順

①テーマは「夢の街」として設け、保育者が子どもたちに街に何があるかを問いかけることで子どもたちのイメージを事前に膨らませておいた。

②道作り



図 1：四隅をマスキングした模造紙



図 2：ローラーを用いた着色

4人1組のグループで1枚の模造紙に3種類のローラーを使って水彩絵の具を塗った。



図 3：4歳児ローラー遊び

黄、青、緑、紫など各自1人1色1本のローラーで自由に塗った。

ローラーは3種類（丸、円柱大、円柱小）あり、交換しながら自由にローラー遊びを楽しむことを目的とした。初めてのローラー製作の中で混色など、自然に発見することができた。



図 4：5歳児ローラー遊び

4歳児と同様に赤、青、緑などの絵の具で1人1色1本のローラー（大、中、小の3種）で製作した。

ローラーでコロコロと着色するだけでなく、絵を描こうとする園児もみられた。また、グラデーションの効果を考えて製作していた。



図 5 : ローラー遊び完成図

ローラー遊びでは、それぞれ塗り方も異なり個性が発揮されていて、グループごとの色合いの作品に仕上がった。



図 6 : モチーフ選び

③モチーフ選び

②と同様のグループでコラージュするためのモチーフ（雑誌やチラシの切り抜き）を 5, 6 枚選び、各自のりで貼りつける。教師が日常的に目にする動物、植物、家、車、虫、食べ物などの雑誌の切り抜きを準備しておいた。

④町作りと描画



図 7 : 共同作業による町作り

クレパスやカラー水性ペンで絵を描き加える。また図鑑や資料を観て描く。折り紙などで立体的に滑り台を貼り付けるなど、イメージを膨らませる中で園児たちは各自の製作方法を選ぶ。

⑤大きな街作り

グループごとに完成させた町を子どもたち主体でどの向きに置くかなど話し合いながら組み合わせさせていき、大きな街を作る。

組み合わせが決定した後、街を車のおもちゃで走らせて遊ぶ。他、手の指で人のように歩かせ夢の街を空想しながら遊ぶ。



図 8 : 完成後の遊び

⑥鑑賞教育

鑑賞教育として共同製作の振り返り、自分や友達作品をみて感想を述べた。保育者はファシリテーターとして鑑賞活動を進めた。製作を通して楽しかった点、面白かった点、こうすればよかったという意見を挙手して自分の言葉で伝えるよう促した。

3. コラージュの作品について

3-1 ～5歳児の作品～

今回の活動では、モチーフ（コラージュ）の枚数を制限しない場合、モチーフ（コラージュ）の枚数を2～3枚に制限する場合、図鑑による描画を活用した場合、折り紙による立体的表現を取り入れた場合など少しずつ条件を変えて設定することで、画面にそれぞれの特徴が見られた。

- ①モチーフについて ②構図の工夫 ③下地からのイメージ活用
- ④図鑑を活用 ⑤立体的表現

これらの5点をもとに以下に考察していく。

①モチーフ（コラージュ）について

5歳児の作品ではモチーフの選び方において、4歳児に比べて同類系統の分類が表れている。動物、食べ物、自然を選び、統一感のある表現になっている（図9）。さらに、5歳児の作品（図10）では同じ種類のモチーフを選ぶだけではなく、関連性を考えながら画面を構成していることが作品から分かる。例えば、車、テント、虫、バーベキュー、ラ



イオンといったモチーフを選ぶことで園児の知識や記憶を一つのストーリーとして表している。また、車、バス、室内、屋外と地平線、牛、木の描画と蟬のモチーフなど、園児の楽しい空想、夢が画面上で構成されていることが分かる。

（図10）

図9：5歳児の作品A

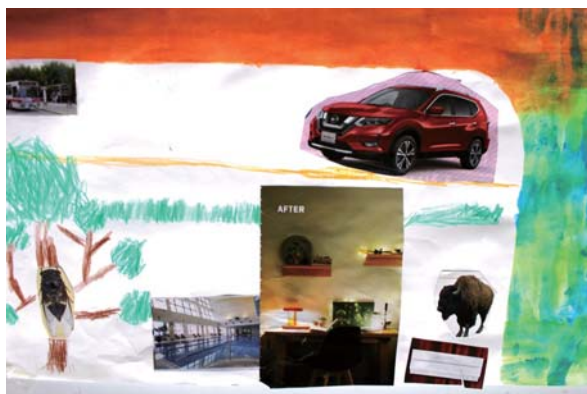


図 1 0 : 5 歳児の作品 B



図 1 1 : 5 歳児の作品 C

図 1 1 の作品では食べ物と人間の顔の描画が見られる。魚やメロンなども描かれていて、園児の好きな時間や空間が表現されていた。最後に、折り紙で画面上の空間を飾って仕上げていた。

5 歳児の作品では園児の表現としてモチーフの分類をする時点でイメージを持って取捨選択できていることが分かった。

②構図の工夫



図 1 2 : 子どもたちの話し合い風景

グループで話し合い、コラージュする前にどのような構図、配置にするか話し合いながら製作を進めていた。

家をクレパスで描き、その中にモチーフを貼り付けて家の中に物があるようには配置している。グループ内の親密度にも影響するが、話し合いながら少しずつコラージュするものを見つけ、画面に貼っていく姿が特徴的であった。

③下地からのイメージ活用



図 1 3 : 赤色の下地



図 1 4 : 青色の下地

赤色の下地からのイメージから季節を意識してクリスマス、サンタ、お節料理などを選び、貼っている。2~3枚ずつコラージュするものを選び、描き加えながら製作していた。
 (図13) 青色の下地からは海をイメージして、グループで話し合い海の生き物などを描画していた。(図14)

④図鑑を活用



図15：図鑑を観察する風景

年中時に図鑑を活用して絵画製作した経験をもとに、今回も動物、植物、魚、鳥、車などの図鑑を参考にしながらクレヨンで描画している姿がみられた。年中時にはカブトムシやクワガタなどの実物の虫をスケッチし、人物のクロッキーなどのスケッチを経験している学年であるため、描くことに抵抗なく取り組んでいた。

⑤立体的表現



図16：立体的表現作品

折り紙をハサミで切り、じゃばらおりにして階段を作ってみたり、梯子を作ったり、滑り台を作ったりした。指導者側が提案したことではなく、園児自ら考え取り組もうとする点が特徴的な場面であった。そのような子どもたちの意欲が見られた理由の一つとして、はさみ、のり、様々な種類のテープ、折り紙、クレヨン、ペンなどの多様な道具のブースを設け、環境を整えていたからだと考えられる。

①～⑤の様な設定を考えて応用できたのは、年中からハサミ、折り紙、図鑑、コラージュなど様々な基礎的な技術を習得しているため(図17,図18)、スムーズに取り入れることができたと考えられる。系統立ててカリキュラムを考え、何をどういつ頃学ばせるかを教材設定することで個々の発達段階を踏まえて楽しみながら学ぶきっかけをつくることが重要であろう。



図17：年中時の図鑑を見て描いた共同製作

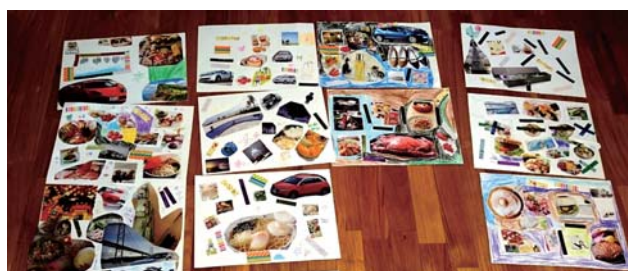


図18：年中児のコラージュ作品

3-2 ～4歳児の作品～



図19：4つのグループ作品を並べた写真

図19から分かることは、モチーフ選び、模造紙の白の余白を空に見立てて空間を作っている。そして、自分たちの座っている位置から近い画面下を地平線にして人や木を描いていることが見て取れる。

一方で、園児の中にはモチーフを少しだけ貼り付けて、後はクレパスの描画だけで終わっている箇所も見られる。描画はまだスクリブルのような線であることから、グループの中での園児の発達年齢の差が大きいことが分かる。



図20の作品では、蝶々、花、大人の女性、バッグのモチーフでイメージを作っている。蝶々の下にひらがなで「がんばれ」、「がんばれ」と文字で表現している箇所が見られる。描画では、自分の周囲の物や植物を描きながら自分なりのイメージを持って画面構成しようとしていた。

図20：図19の一部分をクローズアップした写真

4歳児は5歳児と比較すると各自が好きな表現をして、できたものからまた皆で作りに上げるという姿勢がみられる。製作中も話し合いながら行うというより、各自がコラージュを行う作業に夢中になり、沢山貼りたいという欲求が強く見られた。

一方で、日頃、造形あそびでの共同製作の場が少ない分、お互いで何かを作り上げるという行為は刺激的で、他者のアイデアを意識して楽しんで製作することができた。

4. 鑑賞教育

作品を仕上げて遊んだ後、鑑賞教育を行う。共同製作の振り返り、自分や友達の前で作品を見て感想を述べた。鑑賞を行う上でのねらいは次の3点とした。

- ・自分の描いた作品について自分の考えを言葉にして他者に伝えることができる。
- ・他者の作品の良さに気づき、良い点を発表することができる。
- ・製作過程を振り返り、面白かったことや発見したことなど、気づいた点を述べる。

鑑賞の過程では製作を通して楽しかった点、面白かった点、こうすればよかったという意見を挙手して自分の意見を言葉で伝えるよう促す。自分の思いを言語化して他者に伝えることでアウトプット的能力が向上する。このような学習は小学校に上がってから必要な能力であり、少しずつ練習する場を設ける。「ローラーが面白かった」「本屋を作りたいかった」などの声があがり、自分の好きなものを改めて考えるきっかけづくりに繋がった。

鑑賞教育では実際に作品を繋げて、床に並べてそれを取り囲むように園児が座った。

おもちゃの車や船などを5, 6台用意しておき、街を車で走らせて遊びながら作品を体験した。順番を守り全員が車で遊び、「一緒にこっちを通ろう」、「この町に行ってみよう」などと話しながら遊んでいた。



また1枚の模造紙をクラス全体で繋げると「わーっ。」という歓声があがった。自分たちの作品が大きくなり迫力のある町から街へと変化したことは驚き、喜びとなったのであろう。

おもちゃの車を各自が走らせて街を体感する経験を鑑賞教育に組み込んだ。鑑賞教育において、思いを言語化することも大切であるが、作品を味わい体験することに重きを置いた鑑賞、振り返りも重要であった。

図21：鑑賞と振り返り

5. 総括と課題

今回年中、年長と共に共同製作を2学期後半の時期に設定することでより発展的な作品ができた。年中、年長と共にそれぞれねらいを定めて無理のない範囲で丁寧に製作することで、どの園児も主体的に取り組むことができた。

ローラー遊びの活動では、道具を使ってダイナミックな表現と予想外の効果が期待できるため、そして、これまでに未経験であったため、今回の活動に取り入れた。ローラーを用いた活動では、描画が苦手な園児も自信を持って取り組み、また、ローラーの転がる感

覚を楽しみながら塗ることができていた。マスキングを下処理していたため、4, 5 歳児共に美しく塗ることができた。注意点として絵の具の濃さ、水の分量を変えることでドロドロの厚塗りになり、水分が多いと水彩絵の具のように薄い感じに仕上がるので、絵具の調整をはじめから整えておく必要があった。また、製作に夢中になり、塗りすぎると模造紙が破れる、色が濁るなどしてしまうので、止めるタイミングを保育者は注意しておく必要があった。

ローラーの下地の色をどう設定するかで、その後の町作りに影響してくる。ローラーを自由な色 4 色（赤、青、緑、黄）で塗ると下地にとらわれず自由な町が作られていた。逆にローラーの色を 1 色（赤、青、茶）で塗るとより具体的にイメージして、イメージしやすい為、取り掛かりやすいという反面、子どもたちの想像力を狭めてしまうことも分かった。

今回は製作方法として、折り紙による立体表現、図鑑の活用、コラージュなどいろいろな技法を駆使できるよう設定して取り組ませることで、どのような効果が作品としてみられるかをそれぞれ検証した。コラージュなど貼り付けることは好むが、図鑑を参考にして描く園児は少数であった。よく物を観て描くために資料を参考にする経験をもう少し増やしていきたいと考える。図鑑を活用することで、知識が増え好奇心も育ち、小学校に上がる前から少しずつ図鑑の面白さを感じてほしいからである。

今回のテーマは生活科に繋がるきっかけになるよう設定した。今後も小学校での教科と関連付けて教科横断的な造形活動を実践していきたいと考える。

謝辞

4 歳児、5 歳児クラスの園児たちへ、造形活動で御支援いただきました N 保育園、V 保育園の先生方に感謝の意を表します。

引用・参考文献

- 1) フィリップ・ヤノウィン著、『どこからそう思う？学力をのばす美術鑑賞ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズ』, 淡交社, 2015
- 2) 文部科学省(編), 「幼稚園教育要領」, 2018
- 3) 厚生労働省(編), 「保育所保育指針」, 2018
- 4) 教育課程研究会『アクティブ・ラーニングを考える』, 東洋館出版, 2016
- 5) C. ファディル, M ビアリック, B. トリリング著『21 世紀の学習者と教育の 4 つの次元・知識、スキル、人間性、そしてメタ学習』北大路書房, 2016
- 6) 武藤隆著, 『学習指導要領改訂のキーワード』明治図書, 2017
- 7) A I 時代を生きる子どものための S T E A M 教育, 幻冬舎, 2017

図 1 ～図 21 : 全て筆者撮影

N 保育園児、V 保育園児のその他の作品

